

【事業所名】地域連携推進会議 次第

日付：令和8年8月3日（月）10：00～12：00 よるべ沼代

参加者：K氏（有識者） K氏（福祉関係者） O氏（地域代表） I氏（保護者代表）

U氏（入所者代表） T施設長 Y課長 O課長補佐 Y主任

1、【事業所】 見学 （見学場所）

10：00よりよるべ沼代グラウンドで行われたよるべ夏祭りに各委員出席。約30分程度会場で入所者の方々と会話をされ、一緒にゲームを楽しまれるなど交流を深めていただきました。

2、【事業所名】 事業説明（事業計画・事業報告・運営体制等）

○ 令和7年度事業報告について（別紙参照） T施設長より説明

入所者の重度高齢化に伴い日中活動の在り方について作業班の再編成を実施。体力も低下しており歩行も安定しない方が増えているため、機能訓練の強化が課題となっている。また、感染症の蔓延防止のための研修やBCPの検証と改善についても実施している。

昨年度は体調不良による救急搬送の件数が多く、10月以降毎月1名のペースで入院となっていた。特に1月～2月にかけて寮内で胃腸炎が流行しBCPを発動して支援を実施。重症化に伴う入院加療の過程で医療的ケアが必要になるケースもあった。沼代では医療的ケアが必要となるケースについては支援継続が難しく、昨年11月にストーマ増設を行った入所者の方については、2月に医療ケア付きのGHへ移行となった。

地域移行に関しては、筋ジストロフィーの入所者が本人の希望もあり2月に足柄療護園へ移行している。また今月8/1付で女性入所者1名がGHへ移行。5月に30代の新規入所者が入所され平均年齢は下がっているが、依然として入所者の重度化は進行しており、入所者の増減と重度化が安定的な施設運営の課題となっている。

権利擁護の確立：入所者に対して日中活動と地域移行の意向確認を実施。身体拘束を行っていた方1名は12月で対応終了。残り2名の方もタイムアウトの時間短縮に取り組んでいる。

業務の改善と検証：前述のとおり作業班の再編成を実施した。

地域社会との連携：昨年実施した地域連携推進会議について記載、様々な情報を交換。共有することで考える機会をいただいた。またまちづくり委員会にも出席して地域との連携を深めている。

○ K委員より権利擁護についての質問。

K：本人の意向も大切だが、実現が難しい場合はあるのか？

T：国からの通達や意向確認の義務付けもあり、日中活動や地域移行については定期的に意向を確認し、本人からの要望や、必要な支援の提供が寮内では難しいケース（入浴など）については、日中活動は外部の通所事業所を利用しているが、現時点では他に要望はない。ただ運営面など将来的な事も踏まえて考えていく必要がある。

【事業所名】地域連携推進会議 次第

日付：令和8年8月3日（月）10：00～12：00 よるべ沼代

参加者：K氏（有識者）K氏（福祉関係者）O氏（地域代表） I氏（保護者代表）

U氏（入所者代表） T施設長 Y課長 O課長補佐 Y主任

○ 令和8年度事業計画について（別紙参照） T施設長より説明

入所者の生活環境の見直しは、落ち着て過ごせ環境を増やすため各階のプレイコーナーの改善に取り組んでいる。

短期入所は、新規の見学者は多いが立地不利で利用に繋がらないケースもある。

個別支援検討会議は、利用者の意向を丁寧に確認するため年2回設けており、入所者にとっても職員とゆっくり話ができる良い機会だと思っている。

J S Y ネット（秦野市の寿徳会と平塚市の至泉会との連携）では研修や苦情解決に向けての取り組みを年1回行っている。

D W A Tは、熊本地震の要請は神奈川県まで届いていない。沼代の登録は2名。

地域生活支援拠点事業は、福祉サービスに繋がっていない障害者の緊急的な受け止めをするための制度で、小田原市内は沼代を含めて5事業所が登録している。

今年度は、日中活動支援と生活環境改善の改善が大きな課題。単年度で成果を出すのではなく、沼代の将来像についてしっかり検討していく必要がある。

○ K委員よりハラスメントについて質問。

K：ハラスメントと権利擁護との線引きは？

T：ハラスメントの窓口は職員からの申し立てが中心。利用者は権利擁護部会で対応している。法人内にハラスメントに関する窓口を設置し担当者は各所属長が男女1名ずつ担当。昨年度は1件対応している。職員個々の問題もあるので介入が難しいところもあった。入所者の権利擁護と混同してしまうところもあるので、目的や活動内容を整理する必要がある。

K：ゆりかご園でも会議などでハラスメントについて啓発はしているが。職員個人の関係性になると介入が難しい所がある。

T：たちばなの里では利用者や家族からのハラスメントもありますか？

K ハラスメントというより最近増えたことで、入所者が個人で携帯電話を所持して家族と連絡を取っている。入居時に携帯電話の取り扱いが個別で対応できないと伝えられているが、連絡が途切れたりすると家族から「連絡がこない」と施設に問い合わせがくるケースが増えている。説明をしても納得していただけない場合は他施設への移行を勧めている。苦情解決に関するマニュアルの作成や委員会、コンプライアンスに関する窓口も設置しているが、窓口を通さず相談職や現場などから直に話が来るケースもある。

T：沼代でも以前、入所を希望されている方もいたが保護者との関係性など難しいケースもありました。現在は重要事項説明書にハラスメントの項目も明記するようにな

【事業所名】地域連携推進会議 次第

日付：令和8年8月3日（月）10：00～12：00 よるべ沼代

参加者：K氏（有識者） K氏（福祉関係者） O氏（地域代表） I氏（保護者代表）

U氏（入所者代表） T施設長 Y課長 O課長補佐 Y主任

った。

○ 余暇支援の感想について

I：みなさん楽しそうにしていた。以前に比べると女性入所者の方々が、よりにぎやかになっている印象でした。

K：みんな穏やかな顔をされてとても良い雰囲気でした。入

K：ちょっとした内容でも心がこもっていて非常に良かったです。

O：みんな楽しそうで一緒に楽しませてもらいました。職員の準備も大変だったのではないのでしょうか。入所者の特性や行動に対して目が行き届いている印象でした。

U：楽しかった。食べ物もおいしかった。

O：3年前まで沼代で職員をしていました。以前はコロナの流行期で施設での行事も制限され緊張感のある雰囲気でしたが、雰囲気がとてもよくなった。

Y：外で出来るのがよかった。楽しい時間を共有でき印象にも残ったと思う。

○ 配布物の説明。

夏まつりは暑さの影響で昨年度から9月に変更しました。

職員ハンドブック。今年度改定したもので新人職員の研修にも使用しています、

3, 意見交換

○ 各委員より

K：職員のハンドブックは利用者の支援に関わるものだけではなく、福祉施設で働くに上でのベースになる事項が網羅されている。今日の様子から職員が良い顔で仕事をしていた印象。上司から言われて動くのではなく、自主的に企画し準備を進めているのも非常に良いと思いました。車椅子の入所者も増えているようなので参考として、先日たちばなの里で車椅子の操作や扱い方について勉強会を行った。車椅子利用者にとって近くに職員が立っているだけでも脅威に感じるのです。前触れなく動かされると驚いてしまうので動くときは一声かけるのが基本。

K 職員ハンドブックを見て。とても判りやすく考えさせられる内容が多かった。特に利用者に対する呼称については、先日施設長会でも研修があったが児童養護施設でも議論を深めていく必要があると思う。児童が対象となるとどうしても「くん・ちゃん」呼びになってしまうことが多い。

K：個人の関係性も大事だが基本的にはさん付けが原則。それでも介護相談員の中でも「その人に合った呼び方でもよいのではないか」という意見もある。

T：障害者施設では人権意識が高いので「さん」付けが基本。「関係性」とは誰の視点

【事業所名】地域連携推進会議 次第

日付：令和8年8月3日（月）10：00～12：00 よるべ沼代

参加者：K氏（有識者）K氏（福祉関係者）O氏（地域代表） I氏（保護者代表）

U氏（入所者代表） T施設長 Y課長 O課長補佐 Y主任

での関係性なのかよく考える必要があると職員には話をしている。

加藤 高齢者施設でも基本は「さん」で統一しているが、入所者本人から「ちゃん」付けで呼んで欲しいとの要望もあるので判断が難しい。

I 家では○○ちゃんと呼んでおり本人も気にしていないと思うが、成人に対して「ちゃん」付けはやはりおかしいかもしれない。

O 役所に勤めていたころは毎日呼び捨てにされていた。徒弟制度が根付いている時代でハラスメントという言葉もなかった。今の話を聞いて「時代だな」と感じた。

4, その他

次回はまた来年度開催予定です。

*配布資料

- ① 事業計画・事業報告
- ② 職員ハンドブック
- ③ よるべ祭り案内